北大阪商工組合ニュース

2019年1月／第339号

URL http://www.kita-osaka.co.jp/~kumiai
E-mail kitashoko@leaf.ocn.ne.jp

発行／北大阪商工協同組合　住所／豊中市上野東3-18-15-2F　電話(06)6858-5702　Fax(06)6846-2175　（毎月1回発行）

2019年
仲間と力を寄せあって
新しい年を切り開いていこう！

よりよい社会を自分たちの手に取り戻すために

代表理事　大里　哲久

2018年は今まで経験したことのない記録的な自然災害が頻発しました。被害件数が多すぎて、未だ復旧の見通しが立たずブルーシートに覆われた家屋が見受けられます。組合員企業でも、西日本豪雨で農地に大きな被害が発生し、台風21号では物流センターやPB生産工場、福祉施設などが被害を受けました。各地では停電も発生して復旧が遅れ、急遽、組合員企業の仲間に呼びかけ支援体制を作り、できる限りの対応をしました。今回の自然災害を受け、私たち商工組合も、さまざまな課題に備えた災害時のネットワークを作ることにしました。

商工組合の運営については、世代交代も含め理事体制を変え、若手を中心にした活動を進めようとしました。しかし、組合の役割についての論議を充分に深めることができず、建設的な議論を引き出すことができなかったことに、代表理事として責任を感じています。商工組合の役割は、組合員企業の課題を一緒に協力して解決することです。新年にあたり、さらに試行を重ね、具体的に方針を決め、運営を行っていきたいと思います。

経済情勢では、2018年12月30日に環太平洋連携協定（TPP）が発効されました。自由貿易圏誕生の下に農産物や工業製品の関税が引き下げられ、海外からの牛肉や豚肉を中心とした安い農産物の流入は、国内農業を成り立たせなくします。恩恵を受けるのは、大手の多国籍資本と国内の大企業がほとんどです。中小零細企業は、人手不足の中で厳しい競争に巻き込まれ、さらには消費増税10％により相当な負担を強いられるでしょう。

4月には統一地方選挙で都道府県と政令指定市・市区町村の首長・議員選挙があり、一緒に活動している仲間3人が立候補する予定です。人間らしい、よりよい社会を自分たちの手に取り戻すためにも、地域の組合員企業や福祉、医療団体などと協力して、経済・政治・社会情勢にも関与していきたいと思います。

素敵な村を守る一人として今年も頑張ります

丹波協同農場　近藤　亘

昨年12月11日に第10期の株主総会を開催しました。また、2014年9月に広島県の世羅町から兵庫県丹波市に会社を移動し、4年が経過しました。未熟なため、計画に沿った栽培にはもう少し時間がかかりそうですが、年を重ねるごとにこの地域の気候や土質も分かってきました。さらに現在は古河集落に村入りさせていただき、自治会活動も積極的に取り組んでいます。集落のみなさんから「ぜひ成功してもらいたい」と当初はことあるごとに言われていましたが、最近は「村から絶対出ていくなよ。協力するから」と言われるようになりました。これからも近年頻繁に起こる異常気象は続くと思いますが、あきらめずに続けていきます。

なによりも、村での生活が性に合っています。村の自治に関わり、全体への奉仕活動が頻繁にあります。何かと理由を作り、村人で飲む機会が月に何回もあります。日常的に他者への優しさを感じます。みんなが村のためによく働きます。みんなが大好きです。

これからますます農業を続けていくことが大変になります。みんなで集落を守り農業を継続しなければ、また、単に農作物を栽培して食べ物を作るだけの目的だけでなく、ため池や水田の管理ができなければ、下流域の水害のリスクも増えます。集落や里山の管理を怠れば、都市の鳥獣害も増えるでしょう。また、多くの集落から人が減り続ければ、公共サービスも低下し、都市への移動を決断しなければいけないかもしれない。

素敵な村を守る一人として、今年も頑張ります。応援よろしくお願いします。

「ゆとり」、「余裕」を取り戻していきたい

安全食品流通センター　嶋吉　孝保

平成が終わります。メディアでは平成の30年間を振り返り、昭和のツケを払わされた30年とかなんとか、いろいろ言ってますけど…。平成だろうがなんだろうが、ほんの一握りの人を除けば、世の中が良くなっていないことは実感できるでしょう。元号が変わっただけでいろんなことが良くなるとは到底考えられないし…。

2019年、新しい年が始まりました。自分自身では、大阪に戻って2年がたち3年目が始まります。別院センターでの2年を振り返ると、目の前の仕事としては真面目に取り組んできたものの、何もしていない2年のような気がします。目前の仕事に集中すればするほど、商品と数量と時間と効率に絡められ、人が見えなくなっていくようです。「物より人」という言葉が離れていくような気になるほど余裕がなくなっていたのかもしれません。瀬戸田農場では、あらゆる面で決して楽な運営ではなかったけれども、気持ち的に余裕を持つよう意識していました。

平成が終わり、次の時代はゆとり世代と呼ばれた若い人たちの時代だそうです。「ゆとり」いいですねぇ。別院センターにも自分自身にも、意識して「ゆとり」、「余裕」を取り戻していきたい。その上で、目前のことだけでなく、さまざまなことに取り組んでいく幅を拡げていければなぁと考えています。

●●●●《共同利用・相互協力をつよめよう》●●●●《買う人が売る人に、売る人が買う人に》●●●●《販売ルートの相互紹介で事業の拡大を》●●●●

あけましておめでとうございます

今年も ぶれずに進みます

北大阪商工協同組合